

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

『「まち」とともに歩み、ともに学び 自立できる子ども』の育成を目指します。
○自ら課題を見つけ、多様な解決をしていく子(知)
○個性を伸ばし、互いのよさを認め合える子(徳)
○自他の健康や安全に留意できる子(体)
○「まち」を愛する子(公)
○地域、日本、世界に目を向ける子(開)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

<自他を大切に、互いに認め合う力>
<人やまちと関わる力、コミュニケーション力>
<よりよく問題を解決する思考・判断・表現の力>
<自らを振り返り、調整する力>

具体化した資質・能力

最適解を求め、自分の思考・判断・表現を振り返り、自分や物事をよりよくしようとする力
・試行錯誤する力(粘り強さの発揮)
・思考力(創造的、批判的、論理的、協同的等)
・メタ認知する力
・学校生活、社会生活へ参画する姿勢

中期取組目標

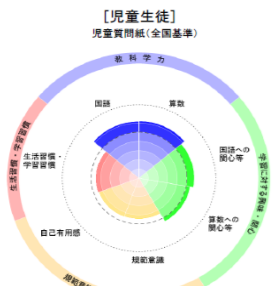
○「まち」とのつながりを感じながら、自分を見つめ 自分をつくる子どもを育みます。
今の大曽根小学校や「まち」のよさを継続して活かしながら、はじめは、大曽根小の子どもたちに身に付けて欲しい資質や能力について教職員間で共有し、育成するための教育活動について授業実践や研修等を通して見直します。そして、目指す教育目標や資質・能力育成のための教育活動の実践と改善に努め、教育目標や中期取組目標の達成度や子どもの資質・能力の育ちを検証します。
3年間を通して、望ましい判断や表現ができる子の育成、学びの価値を実感できる教育活動の改善、地域や保護者等学校関係者と共に取り組む学校づくり、全教職員のチーム力の向上を図ります。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (生きて働く学力) and 具体的取組 (重点研究の生活科や総合的な学習をはじめ、問題解決の力やコミュニケーション力、思考・判断・表現の力を育む授業づくりや教育活動の改善を図る。)

学力向上に関わる本校の状況

本校児童は、基礎学力が高く、基礎基本の学習については身につけている児童が多い。
昨年度の全国学力テストの結果を見ても、全国平均や県平均を大きく上回っている。
しかし、失敗したくない、間違えたくないという気持ちからか、指示待ちになってしまう児童やその都度確認したがる児童が多い傾向にある。
そのため、自ら課題を見つけたり、主体的に活動したりすることが課題と考えられる。
そこで、昨年度は、「自ら問いをもつて学びを調整し、自信をもって表現する子の育成」という研究主題で国語科の研究に取り組んだ。
成果としては、教師側の意識が変わったことで、少しずつではあるが、自ら問いを見つけていく姿や、自信をもって表現する姿がみられるようになってきた。
しかし、まだ課題も多く、子どもの主体性を育む授業を今まで以上に意識して作っていく必要がある。



今年度の目標

子どもが主体的に学ぶ授業づくりをしていく

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
・教科担任制を取り入れ、教師が複数のクラスで授業をすることで、授業改善をしていく。また、問題解決の力やコミュニケーション力、思考・判断・表現を育む授業づくりを目指す。
・重点研究では、生活科・総合的な学習の時間において、まず、授業の立ち上げや基本的な部分の確認を行う。個の学びが成立するように、振り返りや自分の学びを調整する方法を身につけられるようにしていく。
・学年ブロックや専科、職員との連携を密にし、日々の授業づくりや教育活動改善に力を入れる。
・学年で確認しあひながら、教科の基本的な授業づくりを身につけ、授業をコントロールできるようにしていく。
・授業中の発言から、お互いを認め合う関係づくりに努め、自己肯定感を高めて主体的に学習に取り組めるようにしていく。
・ノートなどの振り返りから、個の考えを見取り、授業に還元できるようにしていく。
・取り出し学習では、一人一人が基礎基本を確実に身につけられるようにするために、丁寧にみとり、支援していく。
・動画や写真などの資料を活用することを通して、具体的な理解を促す。
・ICT機器を活用することで、児童同士の意見共有を円滑に行い、考えを広げたり、深めたりする。

下半期
・上半期に身につけた力を生かして、自ら学びを調整する力を高めていく。
・教師と児童のやり取りに終わらず、児童同士での学習の高め合いができるようにしていく。
・研究授業を通して、学びを調整する姿を具体的に捉えたり、そのための教師の支援を考えたりする。

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (豊かな心) and 具体的取組 (授業や教育活動全般を通して、自他を大切にしている姿や互いに認め合う姿を価値づける指導や支援を行う。)

豊かな心に関わる本校の状況

これまで、互いを認め合う風土づくりを行ってきたことで、友達よさに目を向けられるようになってきている。また、友達と協力して活動することが楽しいと感じている児童が多い。たてわり活動では、下級生を気遣いながら行動する上級生も多く見られる。
友達の考えや思いを大切にしようとする一方で、相手の思いを想像して自分の考えにつなげたり、自分の行動につなげたりすることができにくい傾向がある。自分たちで考えたことを生かして行動することに躊躇する児童の姿も見られる。
様々な場所、場面で様々な人とかかわり、多様な考えにふれることで自分の考えを広げていく。そしてよりよい生活づくりに向けて他者とともに行動していくことのできる力をつけていくことが本校の児童にとって大切である。

今年度の目標

子どもが様々な人、もの、こととかかわり合いながら、よりよい生活づくりをしていくことを積み重ね、自己肯定感を高めていく。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
・児童会活動から、あいさつなど、自ら課題を見つけ、自分たちの生活をつくっていきけるような取組の発信を行い、全校で取り組む。(行動目標にするのではなく、代表委員会テーマ(思考目標)につなげていけるようにする。)
・たてわり班でのたてわりタイムを月1回継続して行い、児童が主体となった活動を行う。また、学習や生活の場で学年交流や異学年交流を活用していく。
・学年、クラブ活動、児童会活動などでみとった子どもの姿を積極的に情報交換し、効果的な支援を行う。
・保育園と連携し、交流の計画を立てる。
・学校行事などで、豊かな体験ができるような活動を積み重ね、活動を振り返ることで、子ども自身が成長を感じられるような時間を大切に扱っていく。
・話の聞き方、自分の考えをのびのびと表現できるような風土づくりを行う。
・まちとのつながりを子ども自身がもつことができるように、まちの材の発掘をする。

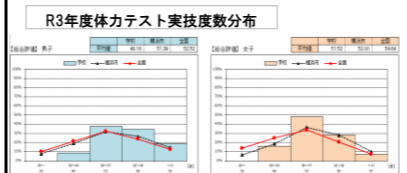
下半期
・上半期で身に付けた力を全教職員で共有化し、その力を生かすことができるような活動づくりを行う。
・たてわり活動での「なかよしデー」に向けて計画、実行し、集団の中で自分たちのよさを生かしながら活動を進めていけるようにする。
・人権週間では、手話や点字、ポッチャなど、体験的な活動を行う機会を設け、人権について考えるきっかけをつくる。
・近隣の保育園や幼稚園との交流に取り組む。

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健やかな体) and 具体的取組 (常に安全に配慮した教育活動に努める。委員会活動をはじめ、子どもが自分事として健康で安全な生活をつくらせることができる取組を行う。)

健やかな体に関わる本校の状況

【保健】
・R3年度保健室来室者数はのべ約2000名。
・感染症予防を意識した、手洗いやマスクの着用はできている。
・健診結果では、視力低下が増加してきている。
【体育】
・体育の学習や体育的行事には一生懸命取り組む姿が見られる。
・体を動かすことは好きだが、能力はあまり高くない。
・児童数の増加に伴い、校庭や体育館を使用できる機会が限られている。



【食育】
・和食が苦手な子どもが多い。
・入学前と小学校給食での食習慣に違いがある。
・食物アレルギーだけでなく特性に応じた食の対応が必要である。

今年度の目標

子どもが自分の心と体に向き合い、健康で安全な生活について考えられるようにしていく。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
・感染症予防や熱中症予防など安全に留意し、子どもたちが安心して活動や運動できる環境を整える。
・スクールサポーターやまっこ交通安全教室など、地域の専門機関と連携した安全教育を積極的に取り入れる。
・健康診断では学校医と連携し、子どもが自分の体の状態を知り、心と体の成長について見通しを持つことができるようにする。
・体力テストの結果から、子どもが自分の体力を知り、自分にできる運動を考えようとする気持ちを育てる。
・入学後の食習慣の移行がスムーズにいこう、低学年を中心に大曽根ボランティアと連携した食育指導に取り組む。
・子どもが主体的に取り組めるような、委員会活動の活性化を図る。

下半期
・子ども自身が、安全な環境を意識しながら生活や遊びを工夫できるよう支援する。
・後期の計測や歯科検診では、自分の成長や生活習慣を振り返る機会を持てるようにする。
・運動会(スポーツフェスティバル)に向けて、運動の楽しさを実感し、運動を継続して生活に取り入れようとする気持ちを育てる。
・個に応じた食育を大切にしながら、給食週間では子どもたちが様々な食品について知り、栄養バランスの大切さに気づけるようにしていく。
・養護教諭や栄養教諭がTTとして学習に関わり、健康な生活について関心を高められるようにする。
・委員会活動を通して、子ども自身が健康課題に気づき、考えたことを全校や地域へ発信する機会を持てるようにする。